平成２７年１２月１４日
教育課程部会
国語ワーキンググループ
資料５

高等学校国語科の科目構成について

学習指導要領改訂における科目構成等の変遷について

昭和３５年改訂（告示）目標

１　生活に必要な国語の能力を高め，言語文化に対する理解を深め，思考力・批判力を伸ばし，心情を豊かにして，言語生活の向上を図る。
２　経験を広め，知識を求め，教養を高めるために，また，思想や感情を人に伝えるために，目的や場に応じて正しく的確に理解し表現する態度や技能を養う。
３　ことばのはたらきを理解させ，国語に関する知識を高め，国語に関する関心や自覚を深めて，国語を尊重し，その発展に寄与する態度や習慣を身につけさせる。

昭和４５年改訂（告示）目標

生活に必要な国語の能力を高め，国語を尊重する態度を育てる。
このため，
１　国語によって的確に理解し表現する能力と態度を養う。
２　国語による理解と表現を通して，思考力・批判力を伸ばし，心情を豊かにする。
３　国語による伝達を効果的にして社会生活を高める能力を伸ばし態度を養う。
４　言語文化を享受し創造するための基礎的な能力を伸ばし態度を養う。
５　国語に対する認識を深め，言語感覚を豊かにし，国語を愛護してその向上を図る態度を養う。

昭和５３年改訂（告示）目標

国語を的確に理解し適切に表現する能力を身につけさせるとともに，言語文化に対する関心を深め，言語感覚を豊かにし，国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

平成元年改訂（告示）目標

国語を的確に理解し適切に表現する能力を身に付けさせるとともに，思考力を伸ばし心情を豊かにし，言語感覚を磨き，言語文化に対する関心を深め，国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

平成１１年改訂(告示)　目標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し，伝え合う力を高めるとともに，思考力を伸ばし心情を豊かにし，言語感覚を磨き，言語文化に対する関心を深め，国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

平成２１年改訂(告示)　目標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し，伝え合う力を高めるとともに，思考力や想像力を伸ばし，心情を豊かにし，言語感覚を磨き，言語文化に対する関心を深め，国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

学習指導要領改訂における科目構成等の変遷について

学習指導要領	領域構成	科目（◎：必履修、○：選択必履修）
昭和35年改訂（告示）	A（聞くこと、話すこと）、（読むこと）、（書くこと） B　ことばに関する事項	◎現代国語 ○古典甲 ○古典乙Ⅰ 古典乙Ⅱ
昭和45年改訂（告示）	A　聞くこと、話すこと B　読むこと C　書くこと ことばに関する事項	◎現代国語 ◎古典Ⅰ甲 古典Ⅰ乙 古典Ⅱ
昭和53年改訂（告示）	A　表現 B　理解 〔言語事項〕	◎国語Ⅰ 国語Ⅱ 国語表現 現代文 古典
平成元年改訂（告示）	A　表現 B　理解 〔言語事項〕	◎国語Ⅰ 国語Ⅱ 国語表現 現代文 現代語 古典Ⅰ 古典Ⅱ 古典講読
平成11年改訂（告示）	A　話すこと・聞くこと B　書くこと C　読むこと 〔言語事項〕	○国語表現Ⅰ 国語表現Ⅱ ○国語総合 現代文 古典 古典講読
平成21年改訂（告示）	A　話すこと・聞くこと B　書くこと C　読むこと 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕	◎国語総合 国語表現 現代文A 現代文B 古典A 古典B

現行の国語の各科目の指導事項

「国語総合」の領域等との関連からみた各選択科目の指導事項

		A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと	〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕
共通必履修科目	国語総合				
選択科目	国語表現	（話すこと・聞くこと）	（書くこと）		（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）
選択科目	現代文A			（読むこと）	（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）
選択科目	現代文B	（話すこと・聞くこと）	（書くこと）	（読むこと）	（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）
選択科目	古典A			（読むこと）	（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）
選択科目	古典B			（読むこと）	（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

※太線枠は、各選択科目において、より指導の中心となるものを示す。

国語教育に関する現状と課題について①

※「学習指導と学習評価に対する意識調査報告書」財団法人日本システム開発研究所（平成21年度文部科学省委託調査報告書）より

○授業や学習指導において心がけていること（質問項目は一部抜粋）

	高等学校		中学校	
	全体	国語	全体	国語
教科書にあることを丁寧に教える授業	44．8%	52．8%	33．8%	35．9%
教科書などの課題に加え，教員が独自に工夫した教材や実技の課題を扱う授業	57．1%	52．8%	50．3%	44．1%
児童生徒がグループで話し合い，考えなどをまとめる授業	6．5%	7．3%	25．9%	34．1%
児童生徒が，自分で課題を選択し，調べたことや考えたことに基づいて，レポートを書いたり発表したりする授業	12．2%	9．3%	12．8%	17．7%
本時のねらいや目標を授業の導入部などでしっかり明示する授業	29．3%	27．5%	45．0%	49．5%
小テストやワークシートなどにより，学期末などだけでなく，日常的に児童生徒に学習状況の評価を知らせる授業	34．7%	54．4%	29．2%	48．2%
宿題を定期的に出す授業	16．2%	22．8%	8．9%	9．1%

課題１：教科書教材等への依存度が高く、主体的な言語活動が軽視され、依然として講義調の伝達型授業が行われる傾向

課題２：話合いや論述など「話すこと・聞くこと」「書くこと」における学習が低調

国語教育に関する現状と課題について②

※「特定の課題に関する調査（論理的な思考）調査結果」（国立教育政策研究所．平成25年3月）より

国語に関連の深い調査問題における主な課題

○　人文科学に関する文章（国語辞典の記述）を読み、文章の特徴を的確にとらえ、それを基に活用できるかどうか把握する問題においては、文章の記述を基に、辞典の特徴を約7割の生徒がとらえていたのに対し、**文章の内容を評価し、目的に応じて適切に活用することができる生徒は約4割**にとどまった。

生徒質問紙の結果

○　論理的な思考力を一般的な表現形式で問う問題については、**7割以上の生徒が解いたことがないと回答しているが、7割以上の生徒がこのような問題を解く力が社会で必要**だと回答。

教師質問紙（国語）の結果

○　授業における言語活動を通した指導の10項目の実施について、**肯定的な回答をした教師の平均は約4割**であった。肯定的な回答が3割に満たなかった項目は、**「文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択して資料にまとめる」**、「調査したことなどをまとめて報告する」、**「課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果をまとめて発表したり、報告書や論文にまとめたりする」**の3項目。

課題3：高校生の思考力・判断力・表現力の一部に課題
課題4：メディアリテラシーや課題探究に関する言語活動等があまり行われていない

国語教育に関する現状と課題について③

※文部科学省「平成25年度公立高等学校における教育課程の編成・実施状況調査」より

各科目の開設状況（平成25年度入学生の教育課程）

	普通科				専門学科				総合学科
	1年次	2年次	3年次	単位制	1年次	2年次	3年次	単位制	
国語総合	93.2%	3.5%	2.4%	6.8%	97.8%	50.7%	2.6%	1.7%	100.0%
国語表現	0.1%	8.6%	37.8%	3.3%	0.2%	7.5%	42.6%	1.0%	75.8%
現代文A	0.0%	7.0%	6.4%	1.5%	0.0%	7.4%	31.5%	0.7%	37.0%
現代文B	0.0%	85.7%	88.9%	6.7%	0.1%	43.4%	51.3%	1.4%	88.2%
古典A	0.0%	19.4%	20.7%	2.8%	0.0%	6.7%	8.5%	0.8%	57.2%
古典B	0.0%	74.9%	77.6%	6.6%	0.1%	12.2%	12.4%	0.9%	80.5%

（参考）現行の国語の各科目の指導事項

「国語総合」の領域等との関連からみた各選択科目の指導事項

		A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと	〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕
共通必履修科目	国語総合				
選択科目	国語表現	（話すこと・聞くこと）	（書くこと）		（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）
選択科目	現代文A			（読むこと）	（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）
選択科目	現代文B	（話すこと・聞くこと）	（書くこと）	（読むこと）	（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）
選択科目	古典A			（読むこと）	（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）
選択科目	古典B			（読むこと）	（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

※太線枠は、各選択科目において、より指導の中心となるものを示す。

○共通必履修科目「国語総合」は、普通科では9割以上が1年次のみに、専門学科では半数程度が1・2年次に設定。
○普通科では、2年次以降の選択科目として、「現代文B」「古典B」を開設する学校が多い。「現代文A」は開設する学校が少ない。
○専門学科では、2年次以降の選択科目として、「現代文B」を開設する学校が多い。3年次においては、普通科と異なり、「古典A」「古典B」よりも、「国語表現」「現代文A」を開設する学校が多い。

課題5：進学希望者の多い普通科では、A科目の開設率が低く、言語文化に関する学習が不十分である可能性がある

国語教育に関する現状と課題について④

※高校生の国語（古文）に関する意識調査（H23　奈良県内公立高校抽出調査）より

国語、古文の勉強、学習について

○ 「『国語』が好きか」という問いに対して、「好き」又は「どちらかといえば好き」と肯定的に回答した生徒の割合は57％%であった。

また、**「『古文』が好きか」という問いに対して、「好き」又は「どちらかといえば好き」と肯定的に回答した生徒の割合は31％**であった。

○ 「『国語』の学習が必要だと思うか」という問いに対して、「必要」又は「どちらかといえば必要」と肯定的に回答した生徒の割合は90％であった。

また、**「『古文』の学習が必要だと思うか」という問いに対して、「必要」又は「どちらかといえば必要」と肯定的に回答した生徒の割合は38％**であった。

○ 生徒が、古文を不要を考える理由としては、「社会に出ても必要がないから」（48．5％）「昔の言葉なんていまさら関係がないから」（30．3％）の回答で約8割となった。

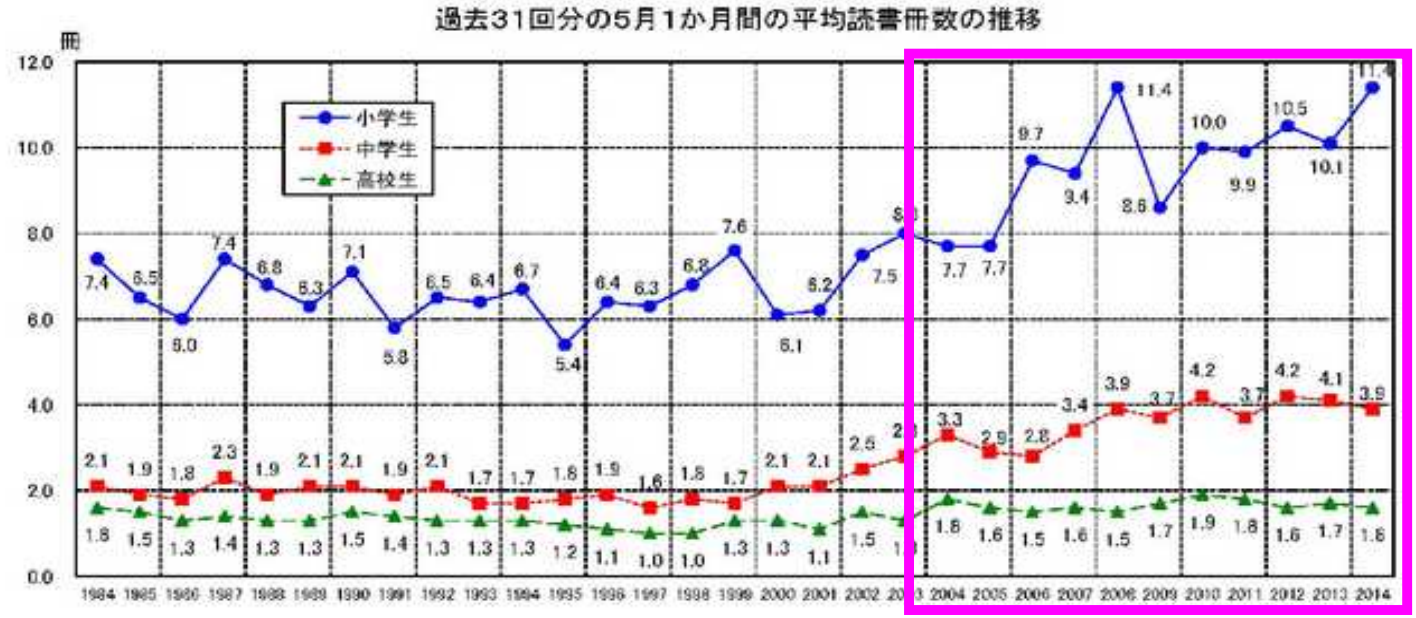
○ 古文の授業において、**意欲的に取り組めなかった学習内容としては、「文法（25.9％）」、「古語の意味（17．8％）」という言語事項に関する回答**が多かった。

課題6：古典（古文）に対する興味・関心とともに、必要性を感じさせる指導にも課題

課題7：学習意欲を高めるために、「文法」「古語の意味」等に関する指導の改善の必要性

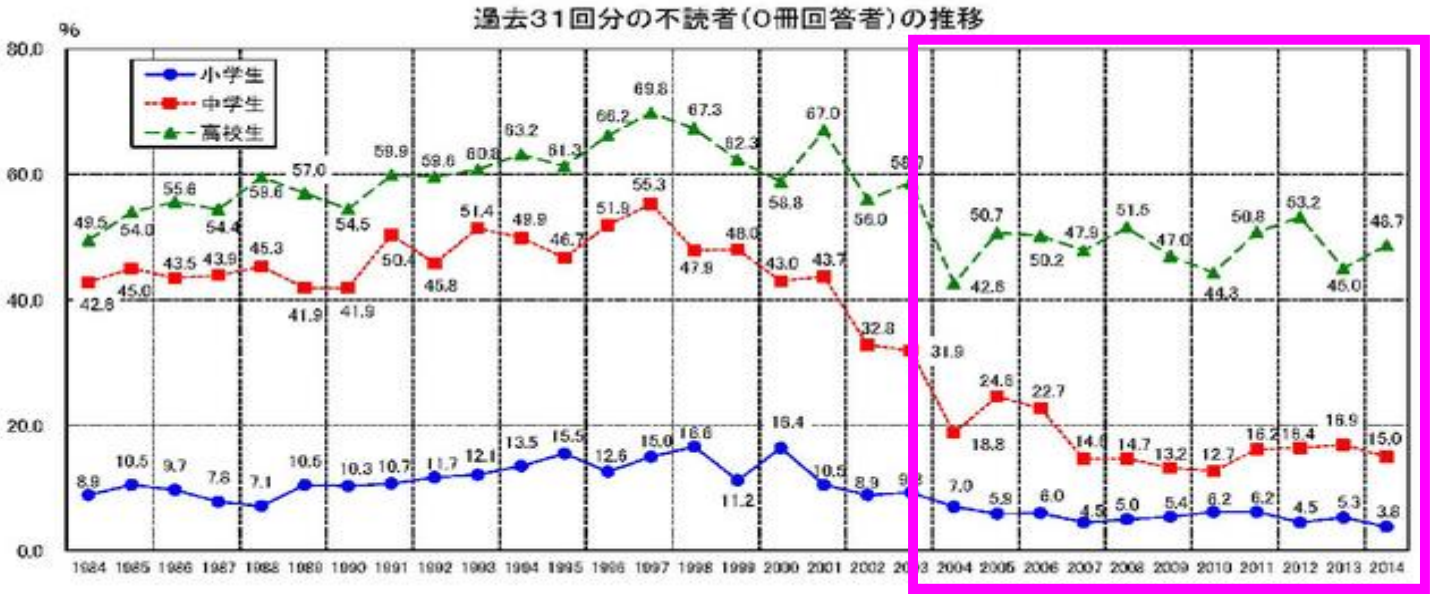
国語教育に関する現状と課題について⑤

※第60回読書調査より（全国学校図書館協議会は毎日新聞社と共同で、全国の小・中・高等学校の児童生徒の読書状況について毎年調査を実施。）



○2014年5月の**1か月間の平均読書冊数**は、小学生は11.4冊、中学生は3.9冊、高校生は1.6冊になっている。

○昨年度に比べ、**小学生は大きく増加したが、中学生・高校生は減少している**。



○この調査では、5月の1か月間に読んだ本が0冊の生徒を「**不読者**」と呼んでおり、今回の調査の結果では、不読者の割合は、小学生は3.8%、中学生は15.0%、高校生は48.7%となっている。

○昨年度と比べ、**小学生・中学生は減少したが、高校生は増加している**。

課題8：小・中学生に比して、高校生の読書活動は、ここ10年ほど改善がみられない

学習指導要領改訂の方向性（国語）

高等学校　国語科目の改訂の方向性として考えられる構成（検討素案）

企画特別部会
「論点整理」補足資料より

≪現行科目≫

国語表現　現代文Ａ　現代文Ｂ　古典Ａ　古典Ｂ

国語総合
【共通必履修科目】

・教材の読み取りが中心になりがちで、国語による主体的な表現等が重視されていない。
・話し合いや論述など、「話す・聞く」「書く」ための学習が低調。
・古典の学習について、日本人として大切にしてきた文化を現代に生かそうという観点が弱く、興味が高まらない。
・情報活用能力という観点から、映像も含む多様なメディア表現から情報を読み取り、表現していく力が必要。

≪改訂の方向性（案）≫

選択科目の在り方

近代以降の口語体の文章（現代文）を中心に、古典としての古文・漢文を含めて扱うなど、総合的な国語の能力を育成する科目

多様な文章等から得た情報を基に**自分の考えをまとめ、適切な構成等で表現**する能力を育成する科目

文学的な文章（小説、随筆・随想、脚本等）を読んだり書いたりする能力を育成する科目

古典としての古文・漢文を読むことを通して、**我が国の伝統的な言語文化への理解・関心**を深める科目

共通必履修科目の在り方

実社会・実生活に生きる国語の能力に関する科目
・「話すこと・聞くこと」「書くこと」といった、表現に関わる能力の育成を重視
・話合いや論述などの活動を重視
・ビジュアルリテラシーの育成に対応する「みること」を指導

古典を含む**我が国の言語文化**に関する科目
・古典及び古典以外の文章に関わる言語文化を理解し、社会や自分との関わりの中で生かす学習を重視
・「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」を中心とする指導

高等学校　現行の課題について

課題１：教科書教材等への依存度が高く、主体的な言語活動が軽視され、依然として講義調の伝達型授業が行われる傾向　（P．４）

課題２：話合いや論述など「話すこと・聞くこと」「書くこと」における学習が低調　（P．４）

課題３：高校生の思考力・判断力・表現力の一部に課題　（P．５）

課題４：メディアリテラシーや課題探究に関する言語活動等があまり行われていない（P．５）

課題５：進学希望者の多い普通科では、A科目の開設率が低く、言語文化に関する学習が不十分である可能性がある（P．６）

課題６：古典（古文）に対する興味・関心とともに、必要性を感じさせる指導にも課題（P．７）

課題７：学習意欲を高めるために、「文法」「古語の意味」等に関する指導の改善の必要性（P．７）

課題８：小・中学生に比して、高校生の読書活動は、ここ10年ほど改善がみられない（P．８）

高等学校　現行の課題と国語科目改訂の方向性との主な対応

※ 課題の番号は、前頁に記載のある課題番号

≪改訂の方向性（案）≫

選択科目の在り方

近代以降の口語体の文章（現代文）を中心に、古典としての古文・漢文を含めて扱うなど、総合的な国語の能力を育成する科目

課題1、3、4、6、7、8

多様な文章等から得た情報を基に**自分の考えをまとめ、適切な構成等で表現**する能力を育成する科目

課題1、3、8

文学的な文章（小説、随筆・随想、脚本等）を読んだり書いたりする能力を育成する科目

課題1、8

古典としての古文・漢文を読むことを通して、**我が国の伝統的な言語文化への理解・関心**を深める科目

課題1、5、6、7、8

共通必履修科目の在り方

実社会・実生活に生きる国語の能力に関する科目
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」といった、表現に関わる能力の育成を重視
- 話合いや論述などの活動を重視
- ビジュアルリテラシーの育成に対応する「みること」を指導

課題1、2、3、4

古典を含む**我が国の言語文化**に関する科目
- 古典及び古典以外の文章に関わる言語文化を理解し、社会や自分との関わりの中で生かす学習を重視
- 「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」を中心とする指導

課題1、5、6、7、8